

静岡少年鑑別所 施設や県警職員が研修

性犯罪者「立ち直り」支援策は



性加害者の社会内の立ち直り支援をテーマに行われた研修会。静岡市駿河区の市健康文化交流館「来・て・こ」

静岡少年鑑別所は25日、性加害者の社会内の立ち直り支援をテーマとした研修会を、静岡市駿河区の市健康文化交流館「来・て・こ」で開いた。保護観察所などの矯正施設や県警、児童相談所の職員ら約50人が民間機関の取り組みを参考に支援のあり方を学んだ。

講師は東京、大阪、福岡に拠点がある「性障害専門医療センターSOMEC（ソメック）」臨床心理士の飯岡慈生（めぐみ）さん。同センターでは希望する性加害者に有料の保険外診療として治療を行う。昨年は1年間で471人の相談に応じた。加害行為の内容は盗撮が大半を占め、痴漢、小児性愛などが続いた。

飯岡さんは「加害者が性犯罪に何を求めていたのかを理解し、それを犯罪以外の実生活で満たすことが必要になる」と治療の方針を説明。再犯防止には加害行為につながる行動の制限だけでなく、生活のリズムを整えることや家族関係の改善なども重要だと説いた。

静岡少年鑑別所の中田健児所長は「社会内で立ち直りを図る性加害者が相談できる場所は少ない上、ケアの仕方も難しく、私たちも手探りの部分がある。各機関でできることを考えていきたい」と話した。

（社会部・木村祐太）